

阪急阪神不動産のマンションブランド〈ジオ〉が推進する森林保全活動

しんきんかん
「森近感 (GREEN COMMUNICATION) ~循環型プログラム~」が
本格始動しました

従業員がお客様や地域社会と一体になって「放置林」の課題に取り組み
持続可能な社会への貢献を目指してまいります

阪急阪神不動産株式会社では、私たちが取り組む森林保全活動を「森近感 (GREEN COMMUNICATION) ~循環型プログラム~」とネーミングし、「人から人へ伝える」をコンセプトに、持続可能な社会づくりへの貢献を目指すことを理念として掲げ、本格的に始動させましたのでお知らせします。

当社が展開するマンションブランド〈ジオ〉には、地球や大地という意味があります。そうしたブランドを持つ私たちだからこそ、一人ひとりが当事者意識を持って森林保全活動に取り組むべきであると考えました。こうした想いのもと、これまでのマンション開発で培ってきたノウハウを活かし、森林保全活動を力強く推進させていく決意を「森近感」に込めて示しました。

これまでの具体的な森林保全活動としましては、神戸市北区にある「阪急阪神不動産の森」において、除伐や間伐などを実施してきました。また、同様に間伐で生じた木材を使って、マンション共用部に木材を積極的に導入しているほか、「ティッシュボックス」や「文房具 (ボールペン、名刺入れなど)」を製作し、販売活動やイベントで配布するなど日々の暮らしの中で環境に対する関心をお持ちいただけるよう取り組んでいます。

今回、本格的に始動した「森近感 (GREEN COMMUNICATION) ~循環型プログラム~」では、これまでの活動をさらに活発化させて、マンションデベロッパーとして、環境課題の解決に主体的にかかわることのできる領域の拡大を図るとともに、より多くの方々に環境意識を波及させられるような仕組みづくりを行ってまいります。

■「森近感 (GREEN COMMUNICATION) ~循環型プログラム~」のロゴマークと、 ロゴマークに込めた想いについて



葉っぱを抽象化した六角形とそれをささえる「人」の文字を1セットにして、少しずつ重ねながら横に並べると青虫が歩行している姿に見えてきます。青虫が成長しチョウになって羽ばたいていくイメージと、人と人がかわり一歩ずつ環境意識を広め発展していく本取組の姿勢とを重ね合わせました。若葉のような緑から深い緑までのグラデーションは循環の意味を込め、緑の重なりが触れ合いや愛着を感じさせるようデザインしました。また、ロゴマークの中に生物を表現することで生物多様性への取組も同時に表しています。

■「森近感(GREEN COMMUNICATION)～循環型プログラム～」を 取り組むことに至った背景について

日本の国土の約7割を占める森林のうち、その半数以上は「天然林」ですが、かつて薪炭林などとして活用されていた里山にある天然林の多くが、現在は放置されたままになっているという課題があります。また、森林全体の約4割は建築材等の目的で植えられた人工林ですが安価な輸入材の影響などで間伐などの手入れがされず、「放置人工林」として増加傾向にあります。かつて燃料や建材の供給源として適切に管理されていた「里山」は、ライフスタイルの変化とともに人との関りが薄れ、次のような社会課題として顕在化しています。

「放置林」によって生じるさまざまな社会問題

●生物多様性の低下

動植物の生息環境が悪化し、その多様性が失われます。

●土砂災害リスクの増加

間伐をしない森では太陽の光が地面に届かないことから、下草が育たずに減ってしまい、その結果として地盤に水を貯える力が弱くなり土砂災害の危険性が高まります。

●獣害の発生

山と人里の境界が曖昧になり、野生動物が農作物を荒らすなどの被害が拡大します。

当社は、放置された里山や人工林の再生を通じ、持続可能な社会の実現を目指しています。これまでマンション開発で培った街づくりの知見や地域連携のノウハウを活かし、従業員がお客様や地域社会と一体になって健全な森林づくりを推進することで、豊かな自然環境の保全と、地域社会の安全・安心に寄与する活動を展開してまいります。

■「森近感(GREEN COMMUNICATION)～循環型プログラム～」の 今後の予定施策について

当社では「森近感」の“人から人へ伝える”というコンセプトのもと、環境意識の循環型プログラムに取り組んでまいります。具体的には、次代の環境づくりを担う子ども世代を中心に、当社のお客様だけでなく幅広く参加者を募り、森林保全の大切さを実感できる間伐体験ツアーや親子向けワークショップの開催、子ども向け森林セミナーの開催などを予定しています。また、間伐した木材をマンション〈ジオ〉をはじめとする当社の事業で積極的に活用し、間伐・活用・植樹を一体としたサイクルを回すことで、持続可能な森林保全の仕組みづくりを推進しています。



※写真はどちらもイメージです。

以 上

【添付資料】（ご参考）阪急阪神不動産におけるこれまでの森林保全活動の具体的な施策例

(1) 従業員による森林保全活動「阪急阪神不動産の森」

兵庫県、神戸市、兵庫県緑化推進委員会と協定を締結し、従業員が主体的に森林保全活動（間伐や植樹など）を実施しています。従業員一人ひとりが現場で汗を流すことで、森林が抱える問題と向き合い、環境意識の向上を図ります。

【活動場所】 キーナの森（神戸市北区山田町藍那）

※「キーナの森」の一部は「阪急阪神不動産の森」と名付けて森林保全活動をはじめています。

【活動期間】 2023年7月3日～2028年7月2日（5年間）

【活動面積】 約2.6ha



※阪急阪神不動産の森林保全活動「阪急阪神不動産の森」に関しましては、これまでに次の2件のニュースリリースを発出していますので、あわせてご覧ください。

- ◆2023年6月29日付 「企業の森づくり活動への取組に関する協定」を7月3日に締結します
https://www.hhp.co.jp/news/docs/2_4863bf2gul8ggs840kokcc8oc.pdf
- ◆2023年11月2日付 2023年10月30日、「阪急阪神不動産の森」の森開きを実施しました
<https://www.hhp.co.jp/news/docs/eb231e858e34c612da5bc2714886ac2587a76894.pdf>

(2) お客様・入居者様への環境意識の啓発

マンションブランド〈ジオ〉のお客様や入居者様にも、森林保全への意識を高めていただく取組を進めています。

- ・マンション共用部に間伐材を活用した家具を設置しデザイン性と環境配慮の両立を図りました。



「ブックラウンジ」（ジオ明石本町）

- ・間伐材で製作したオリジナルデザインのグッズをノベルティとして配付しました。



「ティッシュボックス」



「ボールペン」

(3) 本社の六甲山間伐材を利用した五感で六甲山を感じる展示スペースの設置

「森近感」の活動の価値を社内外へ広く訴求するため、本社オフィスの一角を改装して、木材利用の展示スペースにしました。間伐した六甲山材で従業員が手作りした家具（打合せ用テーブル、ベンチ）に加え、六甲山で採取した、様々な時間帯の「六甲山の自然音」や間伐材由来の「アロマ」を導入。「五感で六甲山を感じる空間」を創出し、取組の意義などを紹介するパネル展示を行うことで森林保全の重要性を直感的に伝える場にしました。今後は、マンション共用部への自然音採用も計画しており、「森近感」プロジェクトの本格始動を機に、人から人へ環境意識を波及させる取組を順次展開していきます。



本社オフィスの一角に設けた
「森近感」の展示スペース



家具製作の様子



六甲山での音源採取の様子

以 上